

2022年度 第1回6月九大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。

② 下線の付け忘れは1点減点。

③ 指定用語不使用は1点減点。

④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。

② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。

③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) _____部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。
- 5) [指定語句] は、解答文中のどこかで使用していれば減点しない。

[1]

問2 24点

[指定語句] 持続可能性 少産少死 人口爆発 都市インフラ (下線不要)

※指定語句不足は1語につき-1点

発展途上地域では、衛生状態の改善や医療の進歩により、多産多死から多産少死の社会に変化し、急激な人口増加が生じた。こうした人口爆発に対応できる十分な食料や雇用がなく、極端な貧困や食料不足が問題となる。農村の余剰労働力は、都市インフラが未整備の大都市に大量に流入し、劣悪な都市・居住環境が生まれる。経済や社会が成長すると、都市化や核家族化、女性の社会進出や価値観の多様化が進み、多産少死から少産少死の社会に変化する。先進地域では、平均寿命の伸びや出生率の更なる減少で人口が減少する国もみられる。社会の担い手や労働力が不足し税収が減少する一方、社会保障給付が増加し、財政や社会の持続可能性が低下している。

【加点ポイント】

i) 発展途上国について (12点)

- ① (人口動態)・人口爆発が起きている／急激に人口が増加した →2点
- ② (人口増加の型) 多産少死である／多産多死から多産少死へ変化した →2点
- ③ (①の背景) 衛生状態の改善／医療の進歩 →2点
- ④ (人口問題)・食料不足／栄養不良人口の増加／貧困層の増加 →2点
 - ・余剰労働力が大都市に集中する／雇用の不足
 - ・都市環境の悪化／スラムの拡大／ストリートチルドレンの増加
 - ・都市インフラの整備が追い付かない

1つ2点 4点まで

[2]

問2 20点

[指定語句] アフリカ 灌漑網 居留地 タウンシップ制 地中海性気候

(下線不要) ※指定語句不足は1語につき-1点

地中海性気候の下、灌漑網の発達するAでは果実や野菜の栽培が盛んで、その収穫など低賃金の季節労働に、隣接するメキシコから移住したヒスパニックを利用してきた。温暖なDでは、かつて綿花プランテーションの労働力としてアフリカから黒人奴隷が連行された歴史を持ち、その子孫が今も多く居住する。Bには、公有地を分割して開拓者に与えるタウンシップ制により、ヨーロッパ系移民である白人の入植が進んだ。一方、Eには白人に土地を追われた先住民ネイティブアメリカンを強制移住させる居留地が設けられたため、その他の割合が高い。

【加点ポイント】(※問1の可否は問わない)

i) A (カリフォルニア州) について (6点)

- ① (産業の特徴) 野菜 (果実) の栽培が盛ん / 地中海式農業が盛ん →2点
- ② (①の背景) ・地中海性気候 →1点
 - ・灌漑網が発達 / 灌漑網を整備 →1点
- ③ (ヒスパニックが多い理由) ・メキシコに隣接 / メキシコからの移住者が多い →1点
 - ・①の低賃金労働力となる / ①の収穫などを行う →1点

ii) B (アイオワ州) について (4点)

- ① (白人が多い理由) 白人が入植した / 白人により開拓が進んだ →2点
- ② (①の政策) タウンシップ制 →2点

iii) D (ジョージア州) について (5点)

- ① (産業の特徴) 綿花栽培が盛ん / 綿花のプランテーション / 綿花農園 →2点
- ② (①の背景) 温暖 / 無霜期間が年200日以上 →1点
- ③ (黒人が多い理由) ①の労働力としてアフリカから強制連行された / アフリカから奴隷として連れてこられた →2点

iv) E (オクラホマ州) について (5点)

- ① (多い人種) ネイティブアメリカン / 先住民 →1点
- ② (①が多い理由) ・居留地が設けられた
 - ・白人に土地を追われた
 - ・強制的に移住させられた } 1つ2点 4点まで

問4 16点

カナダはイギリス系住民が多数であるが、Xにはフランス系住民が多く、分離独立運動が繰り返されてきた。そのためカナダ政府は、異なる文化を持つ複数の民族が共存する社会を目指す多文化主義を導入し、英語とフランス語をともに公用語とした。また、イヌイットの多いYでは同化政策を中止し、彼らに自治権を認めた。さらに、Zには、イギリスから中国に返還される前後のホンコンから多くの移民を受け入れ、中国系住民が急増した。

【加点ポイント】(※問3の可否は問わない)

i) カナダ全体とX(ケベック州)について(10点)

- ①(カナダ全体の多数派)イギリス系住民/英語の話者 →2点
- ②(Xの多数派)フランス系住民/フランス語の話者 →2点
- ③(多文化主義導入の背景)Xで独立運動が起こった →2点
- ④(多文化主義の内容)複数の民族が共存する社会を目指す
/それぞれの民族の文化を尊重する →2点
- ⑤(多文化主義としての政策)英語とフランス語を公用語にした →2点
(※「ケベック州の公用語をフランス語にした」では加点しない)

ii) Y(ヌナブト準州)について(3点)

- ①(民族構成の特徴)イヌイットが多い →2点
- ②(多文化主義としての政策)自治を認めた/同化政策を中止した
/①の言語や文化的習慣を認めた →1点

iii) Z(ヴァンクーヴァー)について(3点)

- ①(民族構成の特徴)中国系が多い/ホンコン(香港)からの移民が多い →2点
- ②(①の理由)香港がイギリスから中国に返還された →1点